

■部会名：高齢化・市民活動部会

■部会長（有識者委員）：佐藤 克之 委員

■市民委員：岸本 佳廣 委員、小島 忍 委員、佐々木 愛 委員、高橋 正生 委員

■概要

1 今回の進め方について

佐藤部会長：前回の部会でまとめた内容についての最終確認作業となる。特に重点項目として選定した部分や、短期・中期・長期の位置付けなどは誤っているところがあるかもしれないので、重点的に確認していきたい。

2 まちづくり政策提言について

佐藤部会長：まず、まちづくり政策提言の中で重点項目としたものの確認をする。短期・ハードには①～⑤までの項目があり、①「若者（学生）から高齢者までのマンパワーを活かす持続性のあるシステムづくり」は、前回の議論でハード・ソフト・ハートづくりのそれぞれ①に入れるということになっていたの、①に入れて重点項目としている。②「高齢者の生活利便性向上・買い物対策」、④「障がい児福祉の充実」、⑤「市民が集まる場づくり」も重点項目としている。

短期・ソフトでは①「若者（学生）から高齢者までのマンパワーを活かす持続性のあるシステムづくり」のみが重点項目である。

短期・ハートづくりでは①「若者（学生）から高齢者までのマンパワーを活かす持続性のあるシステムづくり」、④「自治会活動の活性化」、⑤「市民活動の活性化」、⑥「市民自治意識の向上」が重点項目になっている。

中期・ハードではまず「高齢者福祉の充実」と「障がい者福祉の充実」が分かれていたのを一本化して「高齢者・障がい者福祉の充実」として重点項目としている。

中期・ソフトでは②「江別独自の在宅福祉サービスの充実」と⑤「4大学・大学生が活躍するまちづくり」が重点項目になっている。

中期・ハートづくりでは③「学生と地域の連携」が重点項目になっている。以上で間違いはないか。

－各委員了解－

3 戦略テーマ提言について

佐藤部会長：まちづくり政策提言から重点項目として選んだものを、戦略テーマ実現への方策の欄に記述してあるので、確認をお願いしたい。

一部、記述の誤りがあるので訂正する。短期・ハードの一般的配慮項目が「高

齢者の生活利便性向上・買い物対策」となっているが、「高齢者が活躍する場づくり」に訂正する。短期・ハートづくりの一般的配慮項目に「自治会活動の活性化」が入っているが、これは重点的配慮項目の「市民活動の活性化」の前に移動する。

どんな状態にしたいのかの欄は、前回の部会でご指摘いただいた4大学の連携に関する記述の部分を修正してある。

- どんな状態にしたいのかの欄の「コミュニティ活性化の中核となる新しい組織・えべつ未来づくりのための「COC (Center of Community)」に基づく施策の実施により」の部分は、この部会の委員であれば意味がわかるが、一般の市民が見るとわかりにくいのではないかと。また、「COC」だけだと「大学COC」と区別がつかないので、「江別版COC」というような言葉が入るとよいのでは。

佐藤部会長：それを表現しているのが「えべつ未来づくりのための」という言葉である。

- 「新しい組織・えべつ未来づくりのための」と「・」でつながっているが、「『』」で括れば組織の名称だとわかりやすくなる。

佐藤部会長：では「新しい組織『えべつ未来づくりのための「江別版COC (Center of Community)」』」に修正する。

- 立案背景の2行目あたりは「福祉」で、5行目から10行目が「元気なお年寄」、4行目あたりが「市民活動」、10行目からは「若者（学生）から高齢者までのマンパワーを活かす持続性のあるシステムづくり」のマンパワーに関する背景が記載されている。ここまでの記述で立案の背景はすべて網羅されているので、11行目以降に記載してある大学COCの背景はこの欄には記載しない方がすっきりするのではないかと。大学のことがメインのように見えてしまうし、大学COCのことは立案に関するデータの欄に詳細に記載してある。その部分を削除する代わりに、学生のことをもう少し追記してはどうか。江別の色々なイベントやお祭りで今や学生のボランティア活動が欠かせないものになっている。そのような学生と地域や自治会との関係について記載を追加した方が、マンパワーのテーマにつながるのではないかと。

佐藤部会長：そのような学生の活動に関するデータがあれば記載できる。私がこの部分で言いたかったのは、市内に4つの大学があるというのは非常に大きなメリットだということである。他の地域をみると、学生がどんどん減って大学が閉鎖されている状況であり、何も手を打たなければ江別でもそうになってしまう。学生がいなくなればアパートもなくなり、活気も失われていくので、4大学を大事にして、その受け皿をきちんとつくっておくべきであるという想いを記載した。国の方針では大学を地域再生の核と位置付けており、大学がきちんと地域と連携して活動していかないと補助金が出ないシステムになるので、これをうまく利用していった方が有利である。だが、文章が長いようであれば、下から4行目の「特にこの中で～」以降は削除して、その代わりに学生が活躍しているという内容を追記する方がよいかもかもしれない。

- 大麻・文京台地区のお祭りで自治会と学生が連携していたり、商店街のイベントに学生が参加したりというように、現在でも個別のイベントでは連携しているので、それをもっと継続性のあるシステムにしていく必要がある、という記述があるとよい。

佐藤部会長：では「市内に4つの私立大学を持ち、多くの若者（学生）が生活をしています。」の後に「こうした学生たちが地域のイベントやまちづくり活動に積極的に参加していることから、地域の担い手として欠かせない存在となっています。」と追記し、立案に関するデータの欄には事務局の方で学生の活動事例を追加してもらうことにする。

下から4行目の「特にこの中で～」以降の文章はどうするか。

- その中に「私立大学等経常費補助において」とあるが、これは国の補助金で江別市が出しているわけではなく、直接関係があるわけではないので、削除してよいのではないか。

佐藤部会長：江別市に関係がないわけではない。自治体や地域と連携して活動しないと大学に補助金を出さないという内容であるので、逆に言えば、国からの補助金を使って江別市も色々なことができるということである。ただ、文章が長くなるのでその部分は削除することにする。

- その代わりに、市内に大学が4つもあるという特異性・優位性について追記したらよいのでは。

佐藤部会長：「市内に4つの私立大学を持ち」の前に「道内の他都市に例のない特徴として」を追記する。

- 大学と江別市の結びつきということについて、学生の中で市内に居住している学生の割合のデータがあれば、記載することで関係性の強さを強調できるのではないか。

佐藤部会長：「多くの若者（学生）が生活をしています。」のところを「学生の○%が市内に居住しており」として割合を記載することにする。また立案に関するデータの欄にも居住状況のデータを追加する。

次に立案に関するデータの欄も確認をお願いしたい。

- 介護施設等の待機者数のデータはあるか。

⇒（事務局）待機者数は毎年把握しているので、データを追加することはできる。ただし、複数の施設に申し込んでいる場合に人数が重複してカウントされている。

佐藤部会長：ではそのデータも追加する。

その他、何か追加・修正等あるか。なければこれで確認作業は終了する。本日の修正内容を反映した提言書については、事務局でデータの追加等の整理をした後に郵送するので、ご確認いただきたい。